



いどみず おんどさ
井戸水はなぜ温度差がないの

ちかすい と いど
地下水をくみ取る井戸

地下にある水をくみ出すためにほられた穴を井戸といい、一般にはほり井戸とよばれています。直径1～2メートルの大きさで、井戸のかべは石やコンクリートで作られているものもあり、石管、陶管などをうめこんだものもあります。

降った雨が地中にしみこんで、地中のある部分にたまることがあります。この深さは地面の数メートルから10数メートル下で、井戸をほれば地下水の水も楽にくみ出せます。

みず おんど いってい
水の温度はほぼ一定

この地下水は地中にあるため、地表の温度が季節で変化しても、地下8～20メートルでは約15度Cの水温を保つことができます。気温の高い夏には冷たく感じ、気温の低い冬には温かく感じます。

井戸水は、むかしから飲み水など生活用水として利用されてきましたが、社会が発展するにつれ、農業用水や、工業用水などにも使われるようになってきました。ところが、地下水の多利用のため、地盤が沈んだり、水の汚染問題などがおこってきました。

(監修 青木国夫)

